



水産情報速報版

H20. 10. 3. No1253
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行＝指導部漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

1. サクラエビ秋漁の操業日程決定

－県桜えび漁業組合－

県桜えび漁業組合(望月 武組合長)では、9月3日役員会を開催し、本年のサクラエビ秋漁の操業期間と休漁日を次のとおり決定しました。

▽操業期間：10月30日(木)晩～12月27日(土)朝 ▽休漁日(土曜日と祭日前日)：11月1日(土)、2日(日)、8日(土)、15日(土)、22日(土)、23日(日)、29日(土)、12月6日(土)、13日(土)、20日(土)、22日(月)。

また、秋漁を前に開催している「生産技術研修会」を、10月20日(月)由比港漁協、10月21日(火)大井川町漁協において夫々開催します。

2. 組合員会議開催 県内トラフグ漁獲量は50～65トンと予測

－県ふぐ連－

県ふぐ漁組合連合会(会長：内山尚夫浜名漁協組合長)では、9月12日、伊豆の国市長岡において、組合員等30名の参加のもと組合員会議を開催しました。

会議では、8月の調整会議で取り決めた「平成20年度操業申し合わせ」について確認するとともに、県水技研浜名湖分場花井孝之主任研究員及び水総研南伊豆栽培漁業センター鈴木重則技術研究員等から本年度のふぐ放流事業実施状況及び効果、資源状況、漁海況予報について説明を受け研鑽しました。

それによると、本県の今期トラフグ延縄漁の漁況予測は、前年の年齢別漁獲尾数及び本年8月における駿河丸による試験操業結果から、1歳魚が前年より3割減で、2歳魚は前年の4割増となり、漁獲量は50～65トン程度で前年よりやや少なめになると予測しました。

3. 2008年度漁協運動功労者30人決まる

JF全漁連(会長：服部郁弘会長)では、9月17日漁協運動功労者表彰審査委員会を開催し、2008年度(第23回)の漁協運動功労者30人を決定しました。

本県関係では、石津敏夫氏(JF静岡漁連前理事、JF静岡信漁連前理事)が受賞されました。ここに受賞を衷心よりお喜び申し上げます。

なお、表彰式・祝賀会は、11月20日(木)、東京虎ノ門パストラルで行われます。

4. 世界初！成熟ウナギの捕獲に成功

－水産庁・(独)水研センター－

水産庁と(独)水産総合研究センターは、漁業調査船開洋丸(2,630トン)により、ニホンウナギの産卵海域と想定される西部太平洋の西マリアナ海嶺南部の海山周辺海域で、大型の中層トロール網を用いたウナギ親魚の捕獲調査、プランクトンネットを用いた仔魚及び卵の採集等の調査を、平成20年5月20日～6月15日(前期)と8月20日～9月11日(後期)の2航海で実施しました。

その結果、6月3・4日及び8月31日に、成熟したニホンウナギ4個体(メス1個体、オス2個体、性別不明1個体)とオオウナギ1個体(オス)及び仔魚を捕獲しました。このメスを調べたところ、卵巣が収縮し残った卵もあったため、産卵後のメスと推定されました。トロール曳網水深での水温は、13～25℃、塩分濃度は34.8psu(実用塩分単位)、捕獲水深は200～

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

350mと推定されました。

ウナギの産卵海域は海山山頂付近の浅い海域という仮説もありましたが、捕獲海域の水深は1,200～3,000mと深いことや、スルガ海山付近の比較的浅い海域の調査では卵・仔魚・成魚が全く採捕できなかったことから、外洋生活期のウナギは中層を遊泳し、海山そのものが産卵場所ではないと推定しています。そして9月には、近くで孵化後2～3日程度経過していると考えられる仔魚(プレプトケファルス)26個体が採取されました。このうち9個体は水深100～150m、水温26.5～28℃の層で採取され、仔魚が主に分布している層の水温が初めて明らかになりました。ニホンウナギのみならず、ウナギ属の成熟個体の海洋での捕獲は世界で初めてのことであり、水産庁ではウナギの回遊や産卵生態の解明への大きな前進であるとしています。

なお、本調査の成果は、10月20日から横浜で開催される世界水産学会等で紹介される予定です。

5. 船舶職員養成講習会開催のお知らせ

－焼津漁協－

焼津漁協(西川徳市組合長)では、県の委託を受けて船舶職員養成講習会を下記の予定で開催しますのでご案内します。

▽開催期間：3級海技士(航海・機関) 平成20年11月18日(火)～平成21年3月10日(火)、4、5級海技士(航海・機関) 平成21年1月6日(火)～3月10日(火) ▽講習会場：県立漁業高等学園研修室 ▽海技士国家試験(臨時)：平成21年3月11日(水)～15日(日) ▽試験会場：県立漁業高等学園(筆記)、焼津市文化センター(口述) ▽免許講習：平成21年3月下旬(講習会場：海技大学校他) ▽問合せ先：焼津漁協指導課 Tel054-628-7115

6. 「海洋環境変動とさかな・ひと」、(独)水研センター第6回成果発表会開催される

(独)水産総合研究センター(中前 明理事長)では、9月30日東京都日本消防会館ニッショーホールにおいて、水産関係者をはじめ一般を対象に、「海洋環境変動とさかな・ひと－海がかわる、海がわかる－」と題して第6回成果発表会を開催しました。

発表は、「天気と大漁－気象変化が引き起こす海洋生態系の激変現象－」(発表者：東北区水産研究所 齊藤宏明氏)、「サンマはまだまだ謎がいっぱい－ここまでわかってきたサンマ資源とその生態」(発表者：東北区水産研究所八戸支所 巢山 哲氏)、「温暖化に負けない魚類養殖をめざせ！－水温上昇に対応する飼育技術の開発－」(北海道区水産研究所 安藤 忠氏)など6項目の発表があり、水研センターが日頃取り組んでいる研究開発の中から、地球温暖化も含んだ海洋環境の変動というスケールの大きな事象の中で、それに影響されるマイワシ、サンマなど重要な水産資源、赤潮有害プランクトンの勢力範囲の拡大、水産資源のゆりかごである藻場の磯焼け、水温上昇に対応した魚類養殖を対象とした研究成果について説明がありました。発表内容概要については、今後水研センターのホームページで紹介されます。

7. 本会人事異動のお知らせ

本会では次のとおり従業員的人事異動を発令しました。(カッコ内は旧職)

◇異動 10月1日付▽指導担当参事兼指導部長 村松高明(指導部長) ◇新規採用 10月1日付▽あさり出荷センター 望月俊秀 ◇退職 9月30日付▽河尻正博(指導担当参事)

既報No.1252の人事異動のお知らせにて、旧職名に誤りがありましたのでお詫びして次のとおり訂正します。◇退職 勝又 勉(沼津事業所長心得兼沼津給油所長)

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう